

“学びをひろげる わたしと〇人の会” 第9回研究会報告

1、前回に続いて高校の授業実践について、府立高校教員の増田俊道さんに池田北高校での取り組みを報告していただきました。

池田北高校は、1984年に開校した新設校です。いわゆる「地元校」として、障害のある生徒も含めて地域の生徒を積極的に受け入れて行こうとの方針で、大阪府の特色づくり・再編整備計画にのらず、「地域」の普通高校をめざしてきました。

学校設定科目として「共生科」を創設し、3年生の選択科目として、朝鮮語・中国語・エスペラント語を学ぶ「国際理解」と、地域で活動する高齢者・障害者・NPO 団体などから学ぶ「地域福祉」の授業をつくり、2005年から開講されました。

以来 2013 年度まで増田さんたちが取り組んできたテーマは、▼バリアフリーチェックと小学生への車いす指導 ▼バリアフリーチェックから派生した福祉研修会 ▼ハッピークラブ（地域の高齢者施設）との交流 ▼池北のびのびひろば（乳幼児子育て支援センター） ▼「精神障害」について知ろう ▼部落問題 ▼自分のセクシャリティーを考えよう ▼「医療的ケア」と私の暮らし、などと幅広いものがあります。

「地域福祉」の授業は、選択した3年生20名で、毎週月曜日の5・6時限目の2時間行われ、1年間取り組まれます。増田さんはその学習のようすを生徒たちの姿や感想文を交えて具体的に報告してくださいました。その全てをここに再現することはとてもできません。校内のバリアフリーチェックをして、まとめ整理しながら話し合っていく中で、生徒たちが学校側に提案し、実際にバリアが取り除かれていったことや、乳幼児と向き合う困惑した顔の生徒たち、若いお母さんたちとの盛り上がる会話、障害当事者の講師との丁々発止のやり取り、性的マイノリティーの問題に戸惑う表情等々、きっと揺れ動いたであろう高校生たちの心境を想像しながら、とても楽しく聞くことができました。

授業を語りながら、「うまく行く授業ばかりではなかった、『悔いの残る授業』もあった」「障害のある同級生が講師になって、同級生が学ぶ授業ができたとき、みんなの反応がよかった」と言われた増田さんの言葉が心に残りました。教える側だけではなく、生徒といっしょに学ぶ側にも身を置く教師の柔軟さを感じました。

2、報告を受けて参加者全員が感想と「ひとつだけ質問」を出しあい、それをホワイトボードにまとめました。

- ①生徒から湧き上がるような仕掛けは？
- ②生徒が講師になる授業は？
- ③さらに一歩踏み込んだ授業は？さらにつめた授業は？
- ④放課後活用もできたか？
- ⑤生徒の予備知識の掘り起こしは？
- ⑥精神障害の問題を授業でどう取り組むか？

休憩を挟んで、増田さんから質問に対する答え。そして、全員でフリートーク。話の流れは大きく整理すれば「教師を主語」にして考える話（A）と、「生徒・子どもを主語」にして考える話（B）になったのではと思います。

（A）人権学習・総合学習の「テーマ・教材」づくり

- ・「授業でやりたいこと」が多いから、詰め込みになってしまう面もある。
- ・教師が自分の価値観を発言することが難しくなってきた。

・忙しさ、制度改悪の問題、ストレスマネジメントの必要性

(B) 教師が教えるのではなく、生徒が学び合える授業はつukれないか。

・生徒の感想文を基にして議論したことはないか。

・教科の授業で生徒同士の話し合いはしないか。

・人権学習・総合学習だけではなく、教科学習のときに、生徒が目を輝かせ身をのり出すような教材をつukれないか。

・そうした教材づくりに高校教師の「教科の専門性」を、むしろ発揮できるのではないか。

・いかに教えるかではなく、考える子ども（考える高校生）をつukるという視点。

話を交流しながら、高校の現場で、「教える」と「学ぶ」の境界を往来するような授業の実践が、これから取り組まれて行くのに期待したいということになりました。

3、増田さんが報告のレジメで最後にこう振り返っておられました。

「思い返せば至らなかったこともたくさん見つかるが、それでも、われながらよく頑張ったと思う。週1回（2時間）の授業のために、たくさん時間を使うことができたのは、「自分自身がやって楽しかったこと」に尽きる。さらに、あまり真面目とはいえない生徒たちのために、粘り強く付き合っていたいただいた皆さん。そして、1年が終わるころには大切な何かを見つけてくれた生徒たち。さらに言えば、そういう授業が必要とされる学校の環境と、そういう授業の担当者に配慮をしてくれる職場環境があったからこそ実践できたのだといえる。

しかし、そういった授業や学校が最近が必要とされなくなってきているようで残念だ。心配だ。職場は急速に世代交代しているが、新たな動きが出て来ることを期待したいし、それを支援したいと思う。」

改めて増田さん、貴重な報告をありがとうございました。ますます高校教育に対する興味と関心が広がってきました。これからも高校の授業づくりの課題は、“○人の会”の様々な話の場で交わされることになると思います。